

コニカミノルタグループ  
2012年(平成 24年)3月期  
第2四半期 決算説明会  
主な質問と回答

日 時: 2011年10月28日(金)18:30~19:30  
場 所: 野村コンファレンスプラザ日本橋 6F 大ホール

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご承ください。また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承ください

■ 情報機器事業関連

- Q: 第2四半期は直前期から一転して大幅に収益が改善しましたが、その背景について教えてください。
- A: 第1四半期は東日本大震災に起因した部品調達の制約を受ける中、工場の稼働率を低下させないことを最優先として生産計画を固定した結果、好調な販売状況にも関わらず需給のミスマッチが発生、販売機会の逸失が生じました。第2四半期は部品調達が当初想定よりも前手繰りで復旧し、生産体制も概ね正常化したことから、オフィス分野では採算性の高いカラー機が中高速域中心に直前期比で+19%と大幅に伸長、プロダクションプリント分野においても、商業印刷市場をターゲットとした新製品のカラーハイエンド機が、販売の習熟度向上も伴って大きく伸長しました。これらの結果、粗利率が直前期比で大幅に改善しました。
- Q: 新興国におけるプロダクションプリント事業が急成長しているとのことですが、その背景について教えてください。また同事業における新興国売上の比率はどの程度あるのでしょうか。
- A: プロダクションプリント事業の上半期売上高は約480億円、そのうち国内の売上は約15%程度ありますが、今や新興国における売上高もほぼ同程度にまで成長しています。主な国としては販売会社を設立した中国やインドに加え、現地代理店が強固な販売基盤を持つ南アフリカやインドネシアなどがあります。日本などの先進国では、アナログからデジタルへの技術革新を経て今日の市場が形成されていますが、新興国ではデジタル印刷によるオンデマンド出力の価値が当初より受け入れられ、予想を上回るペースで事業が拡大しています。
- Q: 下半期は競合各社の販売拡大施策により、市場における競争環境は激化するものと思われませんが、御社の下半期見通しの前提について教えてください。
- A: 今回発表した公表値の見直しは、欧州における景況悪化の影響を織り込むと同時に、市場における競争環境の激化も意識して策定しています。一方で、上半期と比較して相対的に下半期の売上高が拡大するのは、3月が決算期となる当社では季節的な要因となっています。

## ■ グループ全体

---

- Q: 今回の通期業績予想の見直しには、タイの洪水による影響は織り込まれていないとのことですが、可能な範囲で、どのような影響が想定されるか教えてください。
- A: 当社の直接的な生産拠点はタイに存在していませんが、情報機器事業と一部のオプト事業で影響を受ける可能性があると考えています。情報機器事業は当該地域から部材を調達しているものがいくつかある一方で、東日本大震災の際とは異なり、代替可能な部品も部分的にあります。オプト事業では、HDD用ガラス基板やデジカメ用のレンズユニットにおいて、顧客の被災状況がまだ明らかになっていない部分があります。
- Q: 当初、東日本大震災による営業利益への影響額は 50 億円と公表されていましたが、上半期として想定並みの影響はあったのでしょうか。
- A: 第2四半期は生産体制も概ね通常に戻り、大幅な収益改善となりましたが、第1四半期での販売機会逸失を全て挽回出来た訳ではありません。部品の調達も正常化しましたが、コストダウン活動の取り組みは第2四半期では本格的に再開出来ていません。以上の様な理由から、上半期における震災影響としては、およそ 35 億円程度が営業利益にインパクトを与えたものと考えています。

以上